

六甲山地における土砂災害の歴史や砂防事業の取り組みを紹介

～JICA「インフラ施設(河川、道路、港湾)災害対策と
マネジメントコース」研修～

～六甲砂防事務所～

独立行政法人 国際協力機構(JICA)が行っている研修の一環として、アルジェリア・インド他9カ国から来日されている「インフラ施設(河川・道路・港湾)災害対策とマネジメントコース」の研修生が六甲砂防事務所を来訪されました。六甲山地での過去の土砂災害と砂防事業の取り組みなどの説明を行い、砂防堰堤工事現場の現地案内を行いました。

概

日時：令和4年11月25日(金) 13:20～16:00

場所：六甲砂防事務所、
伯母野山東堰堤(その3)工事現場(神戸市灘区篠原伯母野山)

要

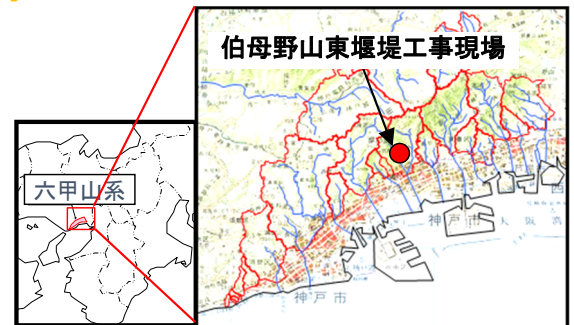
主催：JICA

参加者数：18名(アルジェリア、インド、インドネシア、ガイアナ、セントビンセント、チリ、トルコ、バングラディシュ、東ティモール、ベリーズ、ホンジュラス)

○事業概要説明や土石流模型実験体験、砂防堰堤工事現場の現地案内を行いました

事業概要説明では、六甲山地で実施している砂防堰堤の整備や、六甲山系グリーンベルト整備事業に取り組んでいることを説明しました。続いて土石流の発生メカニズムや砂防堰堤の効果などを模型実験で体験してもらいました。その後、平成30年7月豪雨の災害箇所でもある伯母野山東堰堤の工事現場視察を行いました。現場の様子を間近で見ていただくことで、改めて砂防事業の重要性、必要性を実感していただきました。

【位置図】



事業概要説明の様子



土石流模型実験

【研修生から寄せられた質問】

- 一つの渓流で、砂防堰堤は最大で何基設置されていますか。
→渓流によっても違いますが、多いところでは10基以上あるケースもあります。
- 砂防堰堤は、どれぐらい土砂が貯まったら、土砂を取る必要があるのでしょうか。
→砂防堰堤の種類や管理手法にもよりますが、六甲砂防事務所では砂防堰堤に溜まった土砂が降雨により少しずつ下流に流れ出ていく土砂調整機能を活用しているので、基本的に土砂を取る必要はありません。



伯母野山堰堤でみんなでパシャリ!

【お問合せ先】

国土交通省 近畿地方整備局
六甲砂防事務所 調査課

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町3-13-15
TEL: 078-851-0535

